

## 小地域ネットワーク活動 普及版リーフレットを改訂!

小地域ネットワーク活動の取り組みが本格的にスタートしてから約20年が経過します。

府社協では、これを契機に小ネット活動の意義や可能性について改めて周知を図るため、リーフレットを大幅に改訂。新任者向けの説明会等でぜひご活用ください。

### 近隣の助け合いが原点

平成7年の阪神・淡路大震災をきっかけに、日頃からの近隣

での助け合いが重要であることが再認識され、小地域ネットワーク活動の取り組みがはじまりました。

平成10年には大阪府の補助事業がスタート。声かけや見守りの個別援助活動に加えて、ふれあいサロンや世代間交流活動などのグループ援助活動が各地で活発に取り組みられるようになり、現在では2千力所を超えるサロン活動が展開されています。



### 小ネットの可能性と意義

単身世帯が増え、地域でのつながりが希薄になっていく今だからこそ、地域での支え合いの仕組み・仕掛けを改めて作っていくことが重要です。

最近では、福祉施設や地域の商店と連携した見守りネットワークの取り組みや、高齢や障がい、年齢などに関係なく誰もが集える共生型サロン、マンシオン交流会、かぎ預かりの取

### 連載 Vol.6

## つながりで拓く地域福祉実践

～地域力の見える化から暮らしやすいまちをデザイン!!～

泉大津市社協・地域包括支援センターでは、26年度から泉大津版：要支援高齢者のための地域包括ケアモデルをつくるため、地区単位のワークショップを重ねています。今回はその「地域力を高める工夫」を紹介します。

緒に検討を重ねてきました。

平成26年度に行ったモデル地区のワークショップは全3回。

1回目は専門職が撮影した「まちの写真」をもとに、社会資源の状況について意見交換。

2回目は住民が撮影した写真をもとに、要支援高齢者の暮らしぶりについて話し合い、「この店は個別配送をしてくれる」「交流の場は多いけれど、参加しない閉じこもりがちな人がいる」など、住民だからこそ持っている情報や気づきを共有。

3回目は3地区合同でそれぞれの状況確認。自分の地区の強みや弱みについて話し合い、地域のさまざまな社会資源を「見える化」した地域力発見マップを完成させました。

平成27年度からはモデル地区の要支援高齢者が暮らすうえでの課題を選定し、解決に向けた話し合いを実施。今後もこの活動を継続

していくために「要支援高齢者暮らしやすさ考

え」を結成し、定期的な話し合いの

し合いの



マップを見ながら地域の暮らしやすさを再確認

場をもつ予定です。

なお、平成27年度はこのモデルを踏襲し、モデル地区以外の6地区でも開催しています。

### ◆地域力アップを目指して!

「うちの地域は病院が多いから安心」「近くにスーパーは多いけど、1人で買い物に行けない人も多い」「個別配送や移動販売も利用できる」「福祉委員会の行事や喫茶は貴重な交流の機会」「スーパーのフードコートも、誰でも集える交流の場になっている」など、現状に対する評価や課題意識はさまざま。地域力アップに向けては、「家族や隣近所の助け合いを促す」「認知症の方に関わるための知識や理解を深める」「普段の声かけを大事にする」「対象者の家の近くに居場所をつくる」などの声があがりました。

生活支援コーディネーターの平松さんは「住民と専門職が地域の課題を共有し、一体となって話し合える場づくりは社協の大切な役割。今回のワークショップをきっかけに、より多くの市民や介護・医療等の関係機関とともに、住民全てが暮らしやすいみんなが主役のまちづくりを目指して、地域力を高めるアイデアの具体化に取り組んでいきたい」と抱負を語りました。



## 泉大津市社協 地域貢献委員会が 設立！

3月22日に「泉大津市社会福祉協議会地域貢献委員会」の設立総会が開催されました。

この委員会は市内の12社会福祉法人・15施設が会員となり、事務局を泉大津市社協に設置し、今年度から事業を展開しています。

総会で委員会会長に選任された(福)大阪府障害者福祉事業団・ワークさつきの榎本浩之所長から、「社会福祉法人・施設がこれまで以上に種別を越えて連携を図り、地域の福祉活動団体とともに地域福祉を推進していきたい」とあいさつ。

初年度の事業計画として、施設交流会の開催や、民生委員・児童委員協議会や地区福祉委員会との意見交換を行っていくことが承認されました。

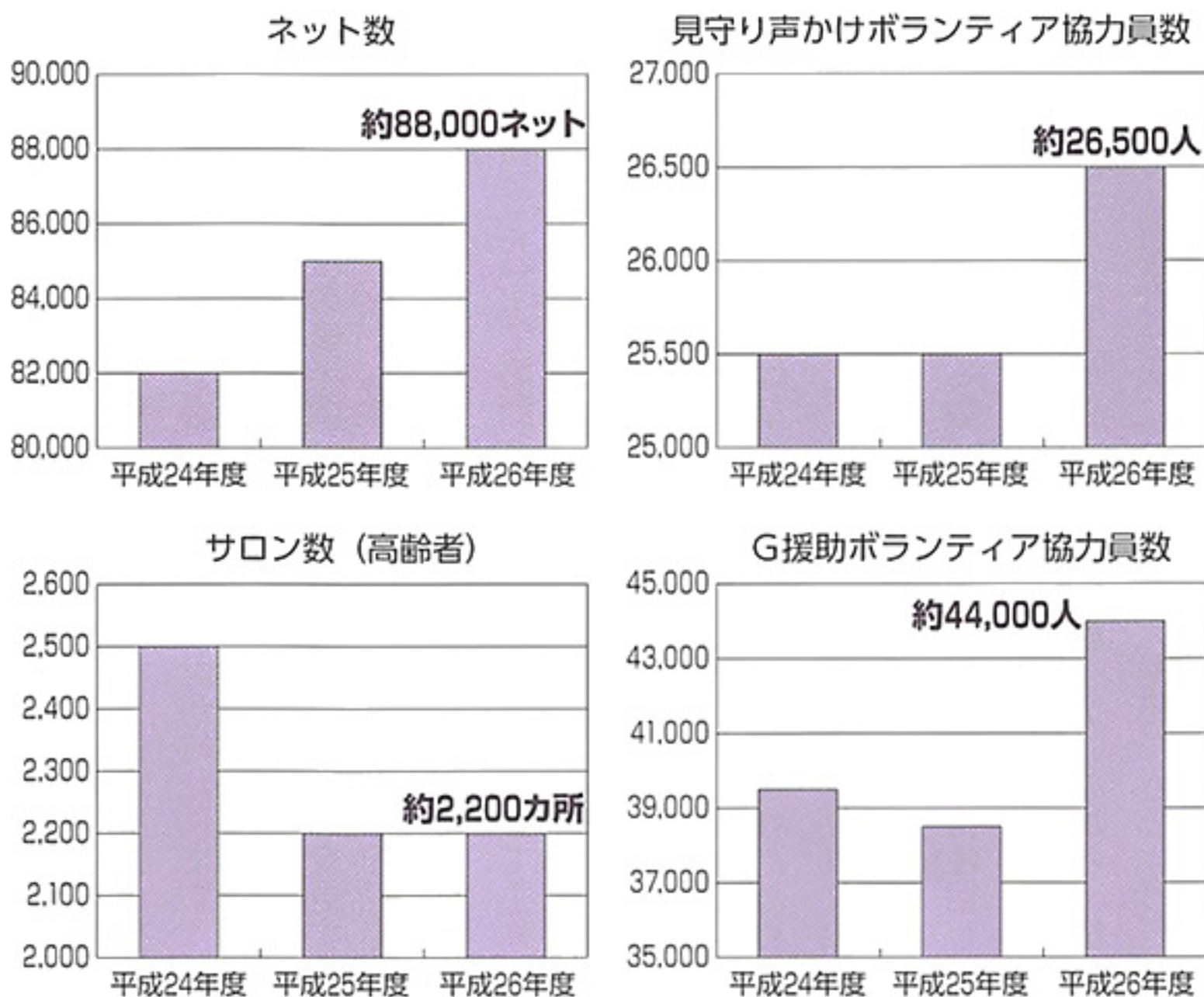
第2部では、吹田市社協施設連絡会会長の熊井茂治氏の記念講演があり、施設関係者だけでなく、社協理事・評議員も交えて、地域貢献委員会(施設連絡会)と社協、地域が連携して取り組むことのメリットや可能性について大いに共有することができました。



[http://www.osakafusyakyo.or.jp/chiiki-g/pdf/hirogare\\_network\\_2016.pdf](http://www.osakafusyakyo.or.jp/chiiki-g/pdf/hirogare_network_2016.pdf)

り組みなど、新しい見守りのカタチが生まれてきています。府社協でも、小ネットリーダー研修会の開催をはじめ、さまざまな機会を通じて府内の実践事例を紹介し、小ネット活動のさらなる充実を図っていきます。詳細はHPからもご覧いただけます。

### 小ネット実績(概数)の推移(平成24~26年度実績)



### 今年の取り組み予定

※一部を紹介。写真は昨年度の様子。

★豊中市民児協  
ケーブルテレビの出演(5月12日予定)

★交野市民児協  
市民と交流・ファミ  
リーフェスタの開催  
(5月13日予定)



★四條畷市民児協  
駅前や商店街などでPR。市の観光大使・絵本作家の谷口智則氏も参加  
(5月15日予定)



5月12日は民生委員・児童委員の日です。そして、この日から1週間を「活動強化週間」として、全国一斉にPR活動が実施されます。

府内の民生委員・児童委員は約8千人。地域住民の「身近な相談役」として生活上のさまざまな心配ごとの相談にのるとともに、必要な支援が受けられるよう地域の専門機関との「つなぎ役」としても活動しています。

その活動と役割を広く住民に知ってもらうため、府民児協連では市町村民児協とともにPRティッシュを作成。駅前や商店街での街頭啓発や、小学校や保育園での配付、見守り対象者へ

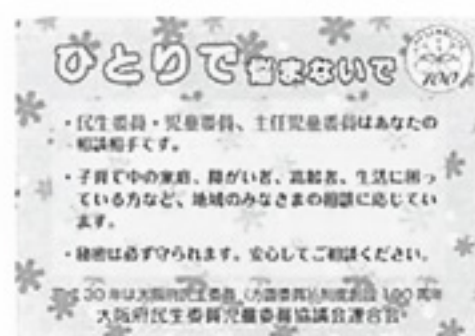
の個別配付などを通じてPRしています。

民生委員制度の前身となる方面委員制度は大正7年に大阪で始まり、平成30年には制度創設100周年を迎えます。

「困っている人を見つけ出し、救いの手を差し伸べる」方面委員制度の精神を引き継ぎ、社会的孤立など支援が必要な人を1人でも多く支えられるように、民生委員・児童委員の活動を、これからも分かりやすく発信していきます。

### 府民児協連

5月12日は民生委員・児童委員の日  
方面委員制度創設100周年に向けて  
府内各地でPR



PRティッシュ  
デザイン